

育成舎

移行期から分娩までの育成期間の大半を過ごす育成舎の目的は、なるべく早く受胎させて乳生産を開始し、なおかつ繁殖サイクルが正常な供用年数の長い成牛を育てることにあります。

この期間は、まず初回授精月齢12～13カ月、初回授精時体重340kg以上、体高125cm以上を目標とします。そして成牛となるとときに初産分娩月齢24カ月、初産分娩時体重540～550kgが達成できれば良いでしょう。

目標を達成するために施設に求められる条件は、きれいな大気、きれいな飲水、十分な日光、清潔で乾燥した牛床+飼槽+運動スペースが保証された牛舎環境です。加えて、人が牛を観察しやすく、作業しやすい労働環境も重要です。

ここでは現地事例をもとに育成舎の設備を次の6項目から検討し、3タイプの育成舎レイアウトを紹介します。

育成舎における設備



牛床



給餌・他



扉・ゲート



屋根・窓



照明



パドック

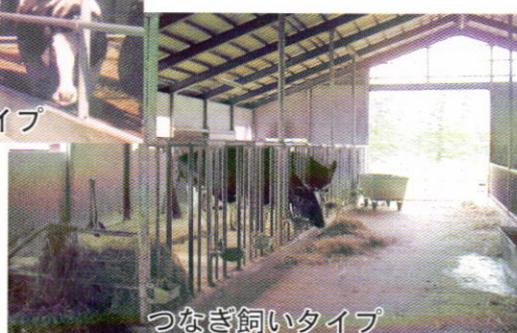
育成舎レイアウト



フリーストールタイプ



フリーバーンタイプ



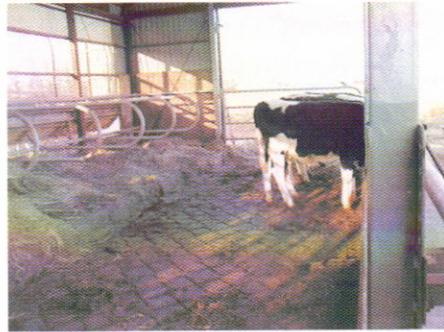
つなぎ飼いタイプ

育成舎の牛床と管理

横臥をためらわせたり、横臥時間の短い牛床は、牛が好む条件が満たされていない証拠です。「すぐに横になりたい」、「ゆったりと横臥したい」と思うくらい気持ちがよく、十分に休息でき、清潔で乾燥した牛床を提供することが大切です。

休息エリアのタイプ

フリーストールタイプ



- 特徴**
- 1頭当たりの牛床のサイズは、フリーバーンタイプに比べて少なくすむ。
 - 糞尿をする位置が決まるため、敷料の量も、フリーバーンタイプに比べ少なくすむ。
 - 対象牛の体格とストールの寸法が一致しないと、通路内で寝たりなど、ストールの利用率が落ちたりする。またストール上で糞尿をし、牛体を汚す要因になる。

表1 育成牛のフリーストールの寸法

月齢 (ヵ月)	体重 (kg)	フリーストールサイズ		ネックレール	
		幅 (cm)	長さ (cm)	ストール床 面からの高 さ (cm)	後部縁石 からの長 さ (cm)
6~8	158~225	75	150	70	115
9~12	225~295	83	160	75	123
13~15	295~360	93	180	85	143
16~24	360~540	105	195	93	155

★頭を前方や側方に突き出すスペースがない場合には、起きる際、前方に突き出すためスペースが必要になる。ストールの長さを30~46cm延長することが必要になる。
(ウイリアムマイナー フリーストール牛舎ハンドブック)

フリーバーンタイプ

- 特徴**
- 牛床の面積当たりの建築単価は、フリーストールタイプより安価であるが、1頭ごと仕切られていないため、1頭当たりの牛床面積は2~3倍必要になる。
 - 牛体を清潔に保つための敷料の量は、フリーストールタイプより多く必要になる。
 - 休息エリアと採食エリアを明確にすることにより、休息エリアで糞尿をしたり、その上に横臥し牛体を汚すことが少なくなる。敷料の必要量や交換間隔も軽減できる(右図)。
 - 敷料管理や除糞管理を怠ると、すぐに牛体が汚れる。

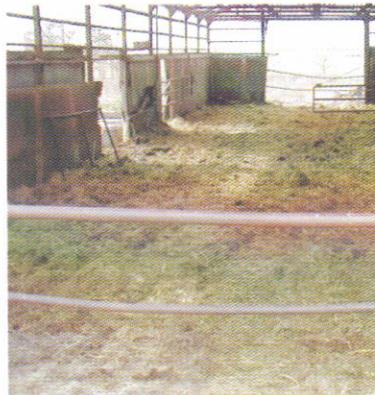


表2 育成牛のフリーバーン寸法

月齢 (ヵ月)	体重 (kg)	1頭当たり 床面積(m ²)
6~8	158~225	2.35
9~12	225~295	2.60
13~15	295~360	2.98
16~24	360~540	3.72

(ウイリアムマイナー フリーストール牛舎ハンドブック)

